



冬期の林内積雪深は2メートルを超えます。写真は積雪調査のようすです。

安田 幸生 Yasuda Yukio
森林防災研究領域

森林は二酸化炭素(CO₂)を吸っていますが、CO₂を吐いてもいます。ここでいう森林とは、樹木などの植物とそれらを取り囲む環境を合わせたものとして考えます。大気中のCO₂は葉の光合成によつて森林に吸収されますが、それと同時に葉・枝・幹・根の呼吸や土壌中の微生物による落葉の分解などによつてCO₂が大気中へ放出されています。地球温暖化が進むなか、森林によるCO₂吸収が注目されていますが、吸収源としての森林の機能を正しく評価するには、吸収量と放出量の差を調べる必要があります。

森林総合研究所では岩手県安比高原にあるブナ林で、正味CO₂吸収量の長期観測を2000年より継続しています(写真1,2)。これまでの観測結果では、このブナ林は毎年、CO₂吸収量が放出量を上回っており、正味でCO₂を吸収していました。つまり、この森林はCO₂の吸収源

森林は、二酸化炭素を吸っている？ 吐いている？

として機能していることが観測より明らかとなりました。しかし同時に、森林はCO₂を大量に吸収して、大量に放出しており、それらの小さな差が正味の吸収量となつていくことが分かりました。将来予想される気候変動によつて、この吸収と放出のバランスが変化することも考えられます。森林のCO₂吸収機能を正しく評価するために、今後も観測を継続していく必要があります。

(2018年12月8日開催講座より)



▲写真1:安比ブナ林における正味CO₂吸収量の観測のようす

◀写真2:林内に設置された観測タワー

森林講座のお知らせ

10月11日(金曜日)
「放射能に汚染されたシイタケ
原木林の利用再開に向けて」
平出 政和(きのこ・森林微生物研究領域)

11月15日(金曜日)
「樹木のタネの成り年の不思議」
韓 慶民(植物生態研究領域)

12月6日(金曜日)
「森林スポーツの現状と課題」
平野 悠一郎(林業経営・政策研究領域)

1月17日(金曜日)
「木を発酵させて造る、
香り豊かなアルコール
—世界初の「木のお酒」を目指して—」
大塚 祐一郎(森林資源化学研究領域)

2月14日(金曜日)
「サクラ等を食い荒らす外来昆虫
クビアカツヤカミキリの生態と防除」
加賀谷 悦子(森林昆虫研究領域)

3月6日(金曜日)
「-196℃で樹木を保存する」
遠藤 圭太(林木育種センター)

会場●多摩森林科学園 森の科学館
時間●13時15分～15時

受講料●無料(ただし、9月30日まで入園料として大人300円、子供50円必要となりますが、10月1日から森の科学館のみご見学の方の入園料は無料となります。)
お申込の受付は各講座開催日の前月の1日から。受付は先着順で、講座開催日の1週間前が締切となります。

ります。
ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、往復はがき、または電子メールでお申し込みください。
なお、それぞれのお申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。

◆お問い合わせ
〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81
多摩森林科学園
電話番号:042-661-1121
Email:shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp



◀電子メール送付先
二次元バーコード